

## 第一部会（第21期・第4回）議事要旨

I 日 時：平成21年10月19日(月) 10:00～12:00  
平成21年10月20日(火) 10:00～12:00

II 場 所：日本学術会議5-A(1)(2)会議室

### III 出席者

#### 1. 第一日目

##### (1) 会員

広渡部長、小林副部長、木村幹事、山本幹事、淡路、井田、猪口(邦)、今西、岩井、碓井、内田、江原、大沢、河野、桑野、小杉、小谷、桜井、櫻田、白田、鈴木、高橋、田口、辻村、直井、野家、野村、長谷川、平松、廣瀬、藤井(譲)、藤井(省)、藤田(昌)、前田、松沢、丸井、森棟、山岸 38名

##### (2) 事務局

川上、小林、齋藤

#### 2. 第二日目

##### (1) 会員

広渡部長、木村幹事、山本幹事、吾郷、淡路、井上、猪口(邦)、今田、今西、上野、碓井、内田、大沢、戒能、河野、桑野、小杉、小谷、酒井、桜井、櫻田、白田、鈴木、高橋、田口、辻村、直井、野家、野村、長谷川、長谷部、廣瀬、藤本、前田、丸井、山岸 36名

##### (2) 事務局

廣田、小林、齋藤

### IV 議 事

#### 1. 機能別委員会からの報告

##### 科学と社会委員会

10/31～11/3にかけて科学の最先端を公開するという事で日本みらい館で行うことになっている。

サイエンスカフェをやっていただく講師の登録を受け付けているが第一部が少ないので関心がある方は登録・協力をお願いしたい。

#### 2. 課題別委員会

##### 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会について

- ・ 商学で括った場合、会計方面の人口分布が多いので、会計学のような専門職の

大学院までできている分野で一つ分けて作ることはできないか

- ・ 人文・地理は完全な複合領域なので地域研究ということで括られてしまうことは望ましくないし参照基準も作りにくいのももう少し細分化してほしい。また、地理学のような第一部と第三部の横断的な分野に関してはどこかに注記をつけてもらいたい。
- ・ 哲学分野のうち、芸術関係の分野は学術会議が対象としていない分野なので当面取り上げないとあるが、美学、美術史、芸術学などが哲学委員会の中に入っているのもそれらも含まれるのか、それとも作品制作に関するものだけを除くのか確認してもらいたい。
- ・ 社会学では福祉関係という学問はないので、社会福祉学ということでお願いしたい。
- ・ 地域研究は元々バラバラなので参照基準が作りにくい。学術会議が三部制を採ったところに問題があると地理学では考えている。この提案は現行の学術会議の一部・二部・三部という縦割りを前提にして作られているのか。このままでは旧態依然の学士課程になるのではないかと思う。ある程度分類が必要なので大枠は必要だが、以前から言っていることを組み込んでほしいと思う。
- ・ 学術研究と教育は手を携えていくところで、文理融合、統合分野ということも配慮してもらいたい。また、これは実行効果を考えた上でのことなのか伺いたいと思う。
- ・ 学士力が問題になった一つの原因は、いろんな大学で新しい名前の学部を作って社会一般から見て一体何の学問なのかよくわからないというものが出てきたのがあると思う。よくわからないものというのはその他に入れられることによって全部こぼれ落ちていくのではないか、それでいいのかと疑問を感じる。

### 3. 日本の展望委員会

配布資料に基づいて、以下の意見が出された。

- ・ 高齢社会の制度設計とか人類社会の持続可能性といった問題を人文・社会科学分野が他の分野を統合して推進していくという書き方にした方がいいのではないか
- ・ 世界とアジアの中の日本というところでいう「アジア」がインドよりも東のアジアしか見ておらず、西アジア中央アジアがほとんど入っていないという印象を受けた。
- ・ 不戦の近い、平和の維持と紛争の解決ということを言うのであれば、西方のアフガニスタン、パキスタン等の戦乱の続いている国が無視されている気がする。
- ・ 210人の会員の中でアフリカを専門にしている学者が一人もいない。
- ・ 重要な課題の提言で書かれているような課題の一つ一つについて、仮にやると

したら我々それぞれの専門の立場で考えておく必要があると思う。

- ・ 「過度な競争政策」という表現が逆に疑いの目を向けられる可能性があると感じる。決め付けでは説得力がない。
- ・ 「大学・大学共同利用機関における独創的・先端的研究の推進あるいは研究支援体制の強化」といった文言を項目案の(3)基礎的・基盤的研究の推進のための政策提言の中に一行入れていただくということが具体的な方法だと思う。
- ・ 日本に関するデータベースを英語でも発信できるように人文・社会科学の総力を挙げてやってもらいたいと思う。
- ・ 環境問題は文理融合的な研究であり、第一部に深く関係するところもあるので、環境に付加を与えないライフスタイルの研究とか環境教育の問題などを考慮に入れてほしい。
- ・ ネットワークの形成というものが違和感を感じる。国際的に発信可能な人文・社会科学の研究というものはどのようなものか、促進するにはどうしたらいいかということを考えていただきたい。
- ・ 第4期科学技術基本計画の策定に向けた意見のまとめ（素案）について、「共同利用・共同研究拠点」というのは制度のことである。古くは「全国共同利用」という名称であったが法令によってなくなっただけで制度のことを指している。また、資料2参考の13ページに「共同利用・共同研究拠点をリードする」とあるが、これは事実ではない。制度について熟知した方が正しく大学・大学共同利用機関、共同利用共同研究制度についての位置づけを明確にして表現した方がいいと思う。
- ・ 人文・社会科学における女性研究者の現状と改革課題というところで、研究阻害要因の項であるが、修士課程修了者のほぼ1/3とあるが、データとして博士課程終了者のどれくらいが就職できているのかについても補ってほしい。
- ・ 社会人を10年ぐらい経た後に大学院へ入る人が多いが、そのような場合、学振のポストクの権利が年齢的にない状態になってしまっている。学振のポストク研究員の年齢制限を研究歴、研究年齢の制限に変えていただきたいということをも是非盛り込んでいただきたいと思う。

#### 4. その他

##### (1) 夏季部会について

来年は第二部も東北大学で行うことを決したようなので日程調整しなければならないが、第一部は7/24～25で行うように進めたい。

今年度と同じイメージ（部会とシンポジウム）で開催したいと思っている。

シンポジウムのテーマも今年度のテーマであった「市民社会の中の人文・社会科学」というものが何でも包括できるテーマでもあるので、来年度もこれに沿っ

て報告をお願いしたいと思っている。

今年度は哲学、心理学、法学、政治学の各分野別委員会に報告をしていただいたので、それ以外の分野別委員会から4つほどお願いしたいと考えている。

言語、文学、史学、教育学、地域研究、経済、経営、社会学から木村幹事に選択をお願いするが意見等あれば寄せてもらいたい。

(2) ニュースレターについて

今回は通常の事務的な報告もののほか、身辺雑記みたいなものもあってもいいかと思い、二人ほど募集している。

まずは11月10日締め切りで上野会員をお願いしたい。

－ 以 上 －